

## 特集「インターネット応用システムの構築と運用管理」の編集にあたって

箱 崎 勝 也†

本特集号は「分散システム/インターネット運用技術(DSM)研究会」が中心となって編集したものである。

DSM研究会は、1994年に発足した分散システム運用技術研究グループの活動を引き継いだ分散システム運用技術研究会として1996年に創設された。年々登録会員が増加し続けているが、インターネットの爆発的な展開を受けて、1999年から現在の「分散システム/インターネット運用技術研究会」として活動を続けている。最近の分散システムのほとんどがインターネット上に構築されるようになってきている。本特集号では、インターネット応用システムの構築と運用に関する実際的な課題と対応を幅広く取り上げようと企画した。

本特集号の企画書には以下のように記述されている。

インターネットはもはや完全に社会に定着し、利用者の急増に合わせて、WWWをはじめ、映像・音声を含めたマルチメディア情報の配信サービスや電子商取引など、様々な新しい技術を利用した応用システムが構築されるようになってきました。しかしながら、インターネットそのものの歴史は浅く、実際のシステム構築ならびに運用のための技術が十分に蓄積されているとはいえないのが現状です。インターネット上の応用システムを構築するにあたっては、高度で多様な利用形態に柔軟に対応できる、ネットワークや計算機システムを設計・構築し、効率的に運用する技術の確立など、様々な問題を解決する必要があります(中略)

本特集号では、このようなインターネット上での応用システムを構築ならびに運用する際に重要となる理論、技術、方法論、通信プロトコル、および、応用システムの実装例、さらには、社会科学的な考察を含めた研究論文等を掲載することを目的といたします。なお、投稿論文の取り扱いとは通常と同じですが、査読は迅速に行う予定です。

本特集号の投稿数は38件、採録されたのは13件であり、採択率は34%とかなり厳しい結果となった。その原因は、必ずしも投稿された論文の質に問題があったのではなく、特集号としての企画と、投稿された方の意識と査読者の査読基準との間のミスマッチによるものが多い。特集号としての査読基準を新たに設けず、従来の査読基準に準拠して運用したが、全体としては、かなり厳しいほうに判断が傾いてしまった。査読にあたって、読者にとって有効な情報を含むシステム実装例などを積極的に採用する方針をもっと明確に打ち出すべきでなかったかと反省している。DSM研究会としては、このような特集を継続して企画したいと考えているが、査読基準とその運用は今後の課題である。

最後に、本特集号発行のために、多忙な中並々ならぬご努力をいただいた編集委員の方々、査読にご協力いただいたの方々、特集号にご投稿いただいた方々に心から感謝の意を表したい。

[インターネット応用システムの構築、運用、管理]  
特集編集委員会

- 編集長  
箱崎 勝也(電通大)
- 編集委員  
相原 玲二(広島大)  
藤崎 智宏(NTT)  
松浦 敏雄(大阪市大)  
東野 輝夫(大阪大)  
金澤 正憲(京成大)  
一井 信吾(東大)  
大塚 秀治(麗澤大)  
渡辺 健次(佐賀大)  
樋地 正浩(東北インターネット協議会)  
中川 郁夫(インテック)  
宮地 利雄(NEC)  
中村 真(シャープ)

† 電通大